

香美町ならではの 教育の挑戦

■問い合わせ先 町教育委員会生涯学習課

地域の歴史を学ぶ調査・講座を開催

本町には、古い時代から今に残る大切な歴史があり、その中でも注目しているのが村岡区寺河内の「文堂古墳」と「山陰道」です。古代、日本海側を東西に結ぶ大事な道路が「山陰道」で、「文堂古墳」はこの重要な道を支配していた有力な人物のお墓であると考えられています。

町教育委員会では、文化財保存活用地域計画の中で、「文堂古墳と山陰道」を1つのストーリーとして位置付け、大学などの研究機関と連携しながら、地域の歴史文化への理解を深め、次の世代へ継承する取り組みを進めています。

文堂古墳と山陰道について

文堂古墳は、今からおよそ1,400年前に作られた円い形のお墓で、県の指定史跡であり、町内で最も大きな石室を持っています。金色に輝く刀や馬の道具など、立派な品々が見つかっており、古代の重要な交通路を支配していた有力な人物のお墓であると考えられています。

山陰道は、古代の国家が整備した大事な道路で、丹波から始まって、但馬、因幡、伯耆、出雲、石見へと続いており、先進的な文化や技術が地方に広がっていく大切な通り道でもありました。

調査と講座の実施

3月22日には、県立考古博物館の篠宮正さんによる説明会を開催し、18人が参加。講座の後には、村岡区森脇の前田遺跡で分布調査を実施し、土器を採集しました。23日から24日の2日間では、同区の福岡、高井、八井谷、大野で、県立考古博物館職員、村岡歴史文化研究サークルのメンバーと現地調査を行いました。

6月20日、21日には、神戸大学の古市晃教授を講師に迎え、調査と講座を実施。20日は、同区の八井谷と大糠の古い地図を見ながら古代山陰道のルート調べ、21日は兎塚地区公民館で、「古代山陰道と駅家講座」を開催し、17人が参加しました。

調査と講座を通じて、山陰道のルートや、駅家、都などの他地域間の交流などが明らかになってきました。今後は、これらの成果を生かし、次の取り組みを進めていきます。

- ・ 大学などの研究機関との継続的な連携による調査研究
- ・ 古文書・古地図の記録作成と活用
- ・ 文化財マップの作成と案内板の整備
- ・ 地域の歴史を伝える人材育成



分布調査で採集した土器の解説



村岡区八井谷での歴史資料の調査

地域の歴史を大切にしよう

古代から近世にかけて、この地を東西に貫く山陰道が、政治・文化・人的交流の舞台であり続けました。町の歴史を学ぶことは、自分たちの地域を大切にするということです。一緒に、この素晴らしい歴史を学び、伝えていきましょう。